

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
YMCA米子医療福祉専門学校	平成5年12月20日	渡邊 達生	〒683-0825 鳥取県米子市錦海町3-2-2 (電話) 0859-35-3181																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人広島YMCA学園	昭和42年3月22日	松井 敏	〒730-8523 広島県広島市中区八丁堀7-11 (電話) 082-228-2266																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
医療	医療専門課程	理学療法士科		平成17年文部科学省告示第170号																			
学科の目的	教育基本法及び学校教育法に従い、高等学校卒業者に対し医療及び福祉等の技能教育を行い、YMCA(キリスト教育年会)の特色であるキリスト教精神に基づく徳性の涵養、知性の研鑽、健康の増進及び健全な社交指導の4方面にわたる民主的「全人教育」を行い、もって地域の医療福祉の向上に資することを目的とする。																						
認定年月日	平成28年3月31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
4年	昼間	旧124単位	71	19	42	0	0																
		新124単位	74	22	28	0	0																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
160人	130人	0人	6人	68人	74人																		
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 科目試験・実習の成績、履修状況、その他の方法に基づいて行う。成績基準はA: 80～100点、B: 70点～79点、C: 60点 卒業は、4年以上在籍し、所定の学費を納入し、定められた授業科目を履修し、規程の単位を修得した者。進級は、当該学年の全課程を修了したと認められる者。																		
長期休み	■夏期: 8月下旬～9月末 ■冬期: 12月下旬～1月上旬 ■春期: 3月下旬～4月上旬		卒業・進級条件		■課外活動の種類 手話サークル																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 定期的にクラス担任が個別面談を行い、状況に応じて保護者へ連絡し保護者との面談を行う。また授業によっては補習の時間を設け、学力の底上げを図っている。		課外活動		■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)																		
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業者) 三朝温泉病院、鳥取大学医学部附属病院、養和病院、日南病院、安来第一病院、松江赤十字病院、松江記念病院、島根大学医学部附属病院など		■就職指導内容 就職ガイダンスおよび就職説明会の個別面談の実施、面接、電話の掛け方、履歴書の書き方などのマナー講座の授業を行い、就職活動のフォロー体制を組んでいる。		<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学療法士国家試験</td> <td>②</td> <td>21人</td> <td>21人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	理学療法士国家試験	②	21人	21人								
	資格・検定名	種						受験者数	合格者数														
理学療法士国家試験	②	21人	21人																				
■卒業生数 21 人 ■就職希望者数 21 人 ■就職者数 21 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 100 %		■その他 URL		※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学療法士国家試験</td> <td>②</td> <td>21人</td> <td>21人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							資格・検定名	種	受験者数	合格者数	理学療法士国家試験	②	21人	21人									
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
理学療法士国家試験	②	21人	21人																				
中途退学の現状	■中途退学者 12 名 令和3年4月1日時点において、在学者125名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者 113名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由		■中退率 9.6 %		■自由記述欄																		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: (有)無 ※有の場合、制度内容を記入 奨学生入試で認定を受けた場合、認定基準によって学費を免除 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: (有)無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 一般社団法人リハビリテーション教育評価機構、受審年月: 2017.7.12																						
当該学科のホームページURL	URL: <a href="http://www.hymca.jp/yonago/">http://www.hymca.jp/yonago/</a>																						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会は本校の実習施設の指導者、関連団体の役職員、学生の就職先である病院・福祉施設の医療あるいは福祉の専門職を委員として委嘱する。委員会は、本校の実践的な職業教育の質の向上のために、現場の意見として本校の教育課程に関する意見を委員から聴取し、その意見をもとに本校教育課程に足りないもの、余分なもの、改善させるべきものを明らかにし、カリキュラムの改善に役立たせる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は本校の主務者、教務部長、各科科長からなる運営会議(別紙資料 組織図)直属の委員会である。教育課程編成委員会で聴取された意見は、運営会議で検討し、決定した内容をさらに教務委員会で細部を検討し、それを元に各科の教育課程を改善していくこととする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
小倉 格	社会福祉法人尚仁福祉会	令和4年4月1日～令和6年3月31日	③
三谷 管雄	清水病院	令和4年4月1日～令和6年3月31日	③
土井 宜幸	介護老人保健施設はまかせ	令和4年4月1日～令和6年3月31日	③
段 敬史	鳥取県作業療法士会	令和4年4月1日～令和6年3月31日	①
渡邊 達生	YMCA米子医療福祉専門学校 校長		
馬場 孝	YMCA米子医療福祉専門学校 教務部長		
岩崎 裕子	YMCA米子医療福祉専門学校 理学療法士科 科長		
田住 秀之	YMCA米子医療福祉専門学校 作業療法士科 科長		
増田 孝之	YMCA米子医療福祉専門学校 介護福祉士科 科長		
三谷 信勝	YMCA米子医療福祉専門学校 事務長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時)

第1回 令和3年 6月22日 18:30～19:20

第2回 令和3年 9月21日 18:30～19:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会でカリキュラムや臨床実習について出された意見については、教務委員会等の会議において検討を行い、可能なものは反映させている。また行政や業界の動向について報告を行い、情報の共有を行っている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

臨床実習については、それぞれ実習目的・実習目標・実習内容を示し、各施設・病院に理解を得た上で、学生が実習目標に到達することができるよう、実習指導者と教員で意見交換を図り、連携をとりながら指導を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

教員は臨床実習Ⅰ(2週間)については中間で施設に電話で連絡を入れ、様子を伺い、必要であれば調整を行う。臨床実習Ⅱ(6週間)、臨床実習Ⅲ・Ⅳ(各8週間)については電話連絡および訪問によって、指導者と調整を行いながら学生の実習指導を行う。学習成果については、実習指導者の評価を元に、セミナーの結果を加味して、理学療法士科の会議で最終的な評価を出す。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
臨床見学実習	臨床に従事する理学療法士の指導のもとに、理学療法サービスが提供されている実際の場面に同席し、日常的な会話・部分的な介助等何らかの直接的な働きかけの体験を通して、専門職としての基本的態度の学習を主目的とする。なお、検査・測定技術の学習(目的と方法を学ぶ)を副次的目的とする。	実習受け入れ施設 計 28施設
臨床実習Ⅱ	臨床経験3年以上の理学療法士の指導のもとに、対象者の評価に関する学習を主目的とする。	実習受け入れ施設 計 21施設
臨床実習Ⅲ	臨床経験3年以上の理学療法士の指導のもとに、対象者の評価と治療に関する学習を主目的とする。	実習受け入れ施設 計 27施設
臨床実習Ⅳ	臨床経験3年以上の理学療法士の指導のもとに、対象者の評価と治療に関する学習を主目的とする。	実習受け入れ施設 計 23施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

「教職員研修規程」に基づいて、各教員の専門分野の知識、技術を身につけ、日常業務の中でこれらが十分に活用され、本校の教育目的達成に役立てることができるように研修の計画を行う。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

専任教員がそれぞれの専門性を追究し、最新の知識・技術について学び、それを教育に生かすために、日本理学療法士協会、鳥取県理学療法士協会などの学術集会や研修会に参加した。

② 指導力の修得・向上のための研修等

専任教員は理学療法教育の質の向上に向けて、教育方法や担当科目に関する最新の知見を得るために、各種学術集会や研修会に参加した。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

専任教員がそれぞれの専門性を追究し、最新の知識・技術について学び、それを教育に生かすために、認定理学療法士の資格取得や、日本理学療法士協会、鳥取県理学療法士協会などの学術集会や研修会に参加する予定である。

② 指導力の修得・向上のための研修等

専任教員は理学療法教育の質の向上に向けて、教育方法や担当科目に関する最新の知見を得るために、各種学術集会や研修会に参加する予定である。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

毎年学校で行う自己評価結果について、学校が選定した学校関係者評価委員から構成される学校関係者評価委員会です。その結果について検討を行う。そこで検討された委員会の客観的な意見は、学校運営の改善を図るうえで反映していく方針である。学校評価委員会では学校で行う自己評価結果の説明を行うと共に、自己点検評価の根拠となる資料の提供を行う等の情報を提供し、学校評価委員に意見や助言が得られやすくなるよう努める。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	(11) 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会の報告書を教員会議において共通理解する。その上で、各科の科会や学校運営会議を通じて学校関係者評価委員会が出された意見を検討し、学校運営に反映させていくこととしている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
段 敬史	介護老人保健施設サンライズ名和	令和3年4月1日～令和5年3月31日	企業等委員
小倉 格	社会福祉法人尚仁福社会	令和3年4月1日～令和5年3月31日	卒業生
稲田 政雄	社会福祉法人みずうみ	令和3年4月1日～令和5年3月31日	企業等委員
安達 久美子	鳥取県済生会境港総合病院	令和3年4月1日～令和5年3月31日	卒業生
吾郷 秀吉	博愛病院	令和4年4月1日～令和6年3月31日	企業等委員
鷺見 洋	デイサービスセンター博愛苑	令和3年4月1日～令和5年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 令和4年7月

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <http://www.hymca.jp/yonago/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校に関係のある病院・施設の関係者が、本校について理解し、連携、協力を図っていくために、本校の教育方針を始めとした学校運営についての情報を可能な限り提供する。必要な情報については学校HPIに掲載し公開する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	(2)各学科等の教育
(3)教職員	(3)教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	(6)学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	(7)学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	(8)学校の財務
(9)学校評価	(9)学校評価
(10)国際連携の状況	(10)国際連携の状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: <http://www.hymca.jp/yonago/>

## 授業科目等の概要

(医学専門課程理学療法士科) 令和3年度 (旧カリキュラム)																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			心理学	心理学は人間を理解し、支援しようとする様々なルートの一つである。また、心理学それ自身が人間を理解し、支援しようとする様々なルートをもっていて、研究領域も広範にわたる。受講生は授業内容の各領域を学習し、人の心の動きや行動—今現在の自分や他者を理解し、あわせて学ぶ人の将来の職業生活や実践活動に結びつく学習をすすめたい。	1前	30	2	○			○			○		
		○	人間関係論Ⅰ	自己理解と他者理解を深め、“人間関係”について客観的に学ぶ。日常生活や学生生活、ひいては対人援助職として、円滑に人間関係を構築するための方法を演習を通して学ぶ。	1前	15	1	△	○		○				○	
		○	人間関係論Ⅱ	人間は生まれた時から様々な人と関係を持ちながら生きている。自身のこれまでの人間関係について振り返りながら、よりよい人間関係を構築するための方法を講義と演習を通じて学ぶ。	1後	15	1	○	△		○				○	
		○	法学	「私達の生活と法の役割」という観点から、人権問題に特に焦点をしぼり、社会生活と法との関係について学ぶ。	1前	30	2	○			○				○	
		○	経済学	戦後の日本経済の歴史、戦後復興から高度経済成長、長期経済停滞からアベノミクスと経済成長戦略の流れを学ぶ。	1前	30	2	○			○				○	
○			物理学	少しでも物理学というものに興味を抱いてもらうために、数式の羅列に頼らないで身近な話題を中心に授業を行う。	1後	30	2	○			○				○	
○			生物学	生物学が他の学問と違う点は「生きている物」を相手にするという点にある。では「生きている」とは実際にはどういうことなのか。この点について自分自身で考える参考にする。	1前	30	2	○			○				○	
		○	生命科学	前半では、遺伝子を中心として分子生物学、細胞生物学の基礎事項を身につけます。後半では、生命科学に関連するニュースなどを、分子・細胞生物学的な背景を通して理解する。	1後	30	2	○			○				○	
○			情報処理学	文章作成 (Word)、表計算ソフト (Excel)、プレゼンテーション (PowerPoint) の基本操作を学ぶ。	1前	30	2	○	△		○				○	













○		運動器疾患理学療法学実習Ⅱ	脊髄損傷・関節リウマチ（RA）および、切断に関連する疾患（熱傷、末梢循環障害、下肢切断）について臨床症状と障害・ADLレベルの関連性について学び、理解する。	3後	30	1	△	○	○	○								
○		脳血管疾患理学療法学	脳血管障害における病態、障害像、評価および理学療法について理解することを目的とする。	3前	30	1	○	△	○	○								
○		脳血管疾患理学療法学実習	脳血管疾患理学療法学で学んだ内容に加えて、脳血管障害の理学療法において関わる合併症やその他の障害などについて理解する。	3後	30	1	△	○	○	○								
○		神経・筋疾患理学療法学	中枢神経疾患のうち神経筋疾患を中心に学び、理学療法アプローチを実施するための推論が行えるようになることを目的とする。	3前	30	1	○		○	○								
○		神経・筋疾患理学療法学実習	神経筋疾患に対する臨床推論に基づき、理学療法プログラムの立案、実施できるようになることを目的とする。	3後	30	1	△	○		○								
○		小児理学療法学	脳性麻痺を主体とする肢体不自由児に関する評価から治療までの理論と実際について学ぶ。	3後	15	1	○			○								○
○		循環器疾患理学療法学	種々の検査や評価から、目に見えない循環器系障害の病態を把握し、リスクの層別化とリスク管理を行いながら有効な理学療法を実施していくために必要な知識と技術について系統的に学ぶ。	3前	15	1	○	△	○									○
○		循環器疾患理学療法学実習	種々の検査や評価から、目に見えない循環器系障害の病態を把握し、リスクの層別化とリスク管理を行いながら有効な理学療法を実施していくために必要な知識と技術について系統的に学ぶ。	3前	15	1	△	○	○									○
○		呼吸・代謝疾患理学療法学	呼吸障害に対する理学療法と糖尿病を中心とした代謝障害に対する理学療法について学ぶ。	3後	15	1	○	△	○									○
○		呼吸・代謝疾患理学療法学実習	呼吸障害に対する理学療法と糖尿病を中心とした代謝障害に対する理学療法について学ぶ。	3後	15	1	△	○	○									○
○		ケーススタディ	前期に行ったクリニカルリーズニングの初期評価レポートをグループでまとめ、発表する。	3後	15	1		○	○									○
	○	健康増進	健康とは何か、健康に対する国の政策と理学療法士の役割、障害を起ささないための予防理学療法について学ぶ。	4後	15	1	○	△		○								○
	○	スポーツ理学療法学	代表的なスポーツ外傷・障害について学び、理解する。そして、評価、運動療法、テーピング法を用いたリハビリテーションについて学習し、その知識、技術を習得する。	3後	30	1	○		△	○								○

	○	癌の理学療法	近年注目されている癌のリハビリテーションにおける理学療法士の役割について、その知識、技術を習得する。	4後	15	1	○		○		○							
	○	理学療法技術論演習	第4学年までに修得した理学療法に関する知識および技術を補足し、卒業後の臨床場面における活用について理解する。	4後	30	1	△	○	△	○		○	○					
	○	地域理学療法学	地域理学療法および地域リハビリテーションの概念および地域リハに必要な知識の取得を行なう。	3前	30	1	○			○		○						
	○	地域理学療法学実習	居住環境、地域環境のバリアについて理解し、障害に対する環境面からの問題解決の技術を習得する。また、地域での各領域に対する理学療法士の活動について理解する。	3後	30	1	△		○	○		○	○					
	○	生活環境論	居住環境、地域環境のバリアについて理解し、障害に対する環境面からの問題解決の技術を習得する。	3前	15	1	○	△		○		○						
	○	福祉用具論	在宅障害者や高齢者の自立生活援助および介護者の普段軽減につなげるため、福祉用具の適切な選択や、福祉用具の使用方法に関する知識と技術を身につけることを目的とする。	3後	15	1	○		△	○		○						
	○	臨床実習Ⅰ	臨床に従事する理学療法士の指導のもとに、理学療法サービスが提供されている実際の場面に同席し、日常的な会話・部分的な介助等何らかの直接的な働きかけの体験を通して、専門職としての基本的態度の学習を主目的とする。	2後	90	2				○		○	○	○	○	○		
	○	臨床実習Ⅱ	最終学年時もしくはその直前に、臨床経験3年以上の理学療法士の指導のもとに、対象者の評価と治療に関する学習を主目的とする。「インターン実習」の通称で呼ばれる。	3後	270	6				○		○	○	○	○	○		
	○	臨床実習Ⅲ	最終学年時もしくはその直前に、臨床経験3年以上の理学療法士の指導のもとに、対象者の評価と治療に関する学習を主目的とする。「インターン実習」の通称で呼ばれる。	4前	360	8				○		○	○	○	○	○		
	○	臨床実習Ⅳ	最終学年時もしくはその直前に、臨床経験3年以上の理学療法士の指導のもとに、対象者の評価と治療に関する学習を主目的とする。「インターン実習」の通称で呼ばれる。	4前	360	8				○		○	○	○	○	○		
	○	臨床実習セミナー	臨床実習を振り返り、学んだことを整理し、今後の課題を明確にする。また、学習経験の交換や問題点の整理および解決策について討議を行い、臨床実習での学びをさらに深める。	4後	45	1				○		○		○				
合計					96科目			3735単位時間(					132単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等
4年以上在籍し、所定の学費を納入し、卒業に必要と定められた授業科目を履修し、規程する単位を修得する。	1学年の学期区分前・後期
	1学期の授業期間 15週

## 授業科目等の概要

(医学専門課程理学療法士科) 令和3年度(新カリキュラム)																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			心理学	心理学は人間を理解し、支援しようとする様々なルートの一つである。また、心理学それ自身が人間を理解し、支援しようとする様々なルートをもっていて、研究領域も広範にわたる。受講生は授業内容の各領域を学習し、人の心の動きや行動—今現在の自分や他者を理解し、あわせて学ぶ人の将来の職業生活や実践活動に結びつく学習をすすめたい。	1前	30	1	○			○			○		
○			人間関係論	自己理解と他者理解を深め、“人間関係”について客観的に学ぶ。日常生活や学生生活、ひいては対人援助職として、円滑に人間関係を構築するための方法を演習を通して学ぶ。	1前	15	1	○	△		○				○	
○			コミュニケーション論	人間は生まれた時から様々な人と関係を持ちながら生きている。自身のこれまでの人間関係について振り返りながら、よりよい人間関係を構築するための方法を講義と演習を通じて学ぶ。	1後	15	1	○	△		○				○	
○			経済学	戦後の日本経済の歴史、戦後復興から高度経済成長、長期経済停滞からアベノミクスと経済成長戦略の流れを学ぶ。	1前	30	1	○			○				○	
○			物理学	物理学の基礎である力学について、力の概念、作用の仕方、ヒトにおける力の働き方等に関することを理解する。	1後	15	1	○			○				○	
○			生物学	細胞および遺伝子の構造と機能を学び、細胞の集まりとしての生物の基礎について理解する。	1前	30	1	○			○				○	
○		○	生命科学	前半では、遺伝子を中心として分子生物学、細胞生物学の基礎事項を身につけます。後半では、生命科学に関連するニュースなどを、分子・細胞生物学的な背景を通して理解する。	1後	30	1	○			○				○	
○			情報処理学	文章作成 (Word)、表計算ソフト (Excel)、プレゼンテーション (PowerPoint) の基本操作を学ぶ。	1前	30	1	○	△		○				○	
○			統計学	表計算ソフト (Excel) と統計解析ソフト (Statcel) を使って、医療・福祉に関連するデータを中心に統計学的な分析を行う。	1後	30	1	○	△		○				○	

○		ウェルネスⅠ	各種のスポーツで、運動理論と実技力を培い、健康で頑健な身体づくりのノウハウや技法を養う。	1 前	30	1	○		△	○							○
○		ウェルネスⅡ	運動の得意・不得意にかかわらず積極的に実践し、それぞれの種目の特性を理解して基礎的な技術、知識や協調性を養ってバランスのとれた身体を目指す。	1 後	30	1				○	○						○
○		医療英語	医療にかかわるコミュニケーションが英語でスムーズに行えるよう、基本的な用語を習得し、聞く力、話す力を中心に英語力を向上させる。	1 前	30	1			○		○						○
○		医療英会話	医療にかかわるコミュニケーションが英語でスムーズに行えるよう、基本的な用語を習得し、聞く力、話す力を中心に英語力を向上させる。	1 後	30	1			○		○						○
○		スタディスキルⅠ	自分が専門職を目指して、積極的に学ぶ存在であることを自覚し、「学生」として必要な学習技術を身につける。	1 前	30	1	○	△			○						○
○		スタディスキルⅡ	自分が専門職を目指して、積極的に学ぶ存在であることを自覚し、「学生」として必要な学習技術を身につける。	1 後	30	1	○	△			○						○
○		キャリアデザイン	自分自身のキャリアデザインをし、社会の中における自分の役割を理解する。	1 前	30	1	○	△			○						○
○		解剖学Ⅰ	人体の構成要素（細胞・組織）と階層性を理解する。これらの理解のもと、外皮、消化器、呼吸器、循環器、内分泌器、泌尿生殖器、感覚器の各器官の成り立ち（構造・発生）と関連、その役割を理解する。	1	30	1	○				○						○
○		解剖学Ⅱ	1. 骨学 2. 関節靭帯学 3. 筋学について講義を行う。骨学については実習を行う。	1	75	3	○		△		○						○
○		解剖学演習Ⅰ	解剖学授業に合わせて、予習復習をこの授業を足掛かりに進めていき、解剖学の基礎を確実なものにする。	1	60	2	△	○			○						○
○		解剖学演習Ⅱ	解剖学演習により解剖学の基礎を確実なものにする。	2 後	15	1	△	○			○						○
○		生理学Ⅰ	人体の各臓器の役割を解説し、それらの働きがどのようなメカニズムによって調節されているか説明する。また、種々の機能を測定する検査法を紹介し、その原理を理解することも大切である。さらに、病気の時に見られる症状がどのようにして起こるのか、生理学的な思考法で考えられるようにトレーニングを行う。	1 前	30	1	○				○						○









○		理学療法評価学	理学療法の一連の過程における評価の概念について学ぶ。また、評価の一部である検査・測定についても学ぶ。	1前	30	1	○		△	○		○						
○		運動機能評価学Ⅰ	運動機能評価法である徒手筋力検査法を理解し実施できることを目的とする。	1後	30	1	△		○	○		○						
○		運動機能評価学Ⅱ	理学療法に必要な運動器の機能評価を理解し実施できることを目的とする。	1後	30	1	△		○	○		○						
○		中枢神経機能評価学	中枢神経系の理学療法評価を構成する検査・測定の目的、意義、内容、方法を理解し、実技演習により実践できるようになることを目的とする。	2後	30	1	△		○	○		○						
○		内部機能評価学	本授業ではバイタルサイン、フィジカルアセスメントを中心に基本的な呼吸器、循環器の評価について学習し、習得する	2前	30	1	△		○	○		○						
○		臨床推論演習	理学療法における臨床推論過程について学ぶ。	3前	30	1		○		○		○						
○		体表解剖学	1年次に学修した解剖学をもとに、解剖学的知識を整理し、また体表から触れられる解剖学的構造の触診を通して、組織や機能解剖について学習する。	2前	30	1	△		○	○		○						
○		動作分析学	「ひとの身体や動き」について姿勢・動作の観察・分析の実際について学ぶ。	3前	30	1	○			○		○						
○		画像評価学	理学療法に必要な主な画像情報について理解し、画像情報を理学療法の評価・介入にどのように役立てるかについて学ぶ。	3前	15	1	○			○		○						
○		運動療法学基礎	理学療法を構成する治療技術の一つである「運動療法」について理解を深め、種々の運動療法が基礎知識を踏まえて説明できることを目的とする。	1前	30	1	○			○		○						
○		運動療法学実習Ⅰ	種々の運動療法をリスク管理も含めて実施できるようになる。	2前	30	1	△		○	○		○						
○		運動療法学実習Ⅱ	種々の運動療法をリスク管理も含めて実施できるようになる。	2後	30	1	△		○	○		○						
○		日常生活活動学	日常生活活動（ADL）の基礎的な知識を習得し、援助・評価方法について理解する。	2前	30	1	○		△	○		○						



○		疾患別理学療法演習	臨床実習で経験する代表的な疾患について、それぞれの病態生理から理学療法までの一連の流れについて学ぶ。	3後	30	1	△	○	○	○								
○		予防理学療法学	障がいを引き起こす恐れのある疾病や老年症候群の発症予防・再発予防を含む身体活動に対する理学療法について学ぶ。	4後	15	1	○		○	○								
○		スポーツ理学療法学	代表的なスポーツ外傷・障害について学び、理解する。そして、評価、運動療法、テーピング法を用いたリハビリテーションについて学習し、その知識、技術を習得する。	3前	30	1	○		△	○								
○		理学療法技術論演習	第4学年までに修得した理学療法に関する知識および技術を補足し、卒業後の臨床場面における活用について理解する。	4後	30	1	△	○	△	○					○	○		
○		理学療法特論	第4学年までに修得した基本的理学療法に関する知識および技術をもとに、卒業後の臨床場面における理学療法トピックスについて学ぶ。	4後	15	1	○			○					○	○		
○		クリニカルセミナーⅠ	他学年と合同でゼミ活動を行うことを通して、協力して課題を実行する態度を養うとともに、理学療法に関する理解を深める。	1	60	2		○		○					○	○		
○		クリニカルセミナーⅡ	他学年と合同でゼミ活動を行うことを通して、協力して課題を実行する態度を養うとともに、理学療法に関する理解を深める。	2	60	2		○		○					○	○		
○		クリニカルセミナーⅢ	他学年と合同でゼミ活動を行うことを通して、協力して課題を実行する態度を養うとともに、理学療法に関する理解を深める。	3	45	1		○		○					○	○		
○		地域理学療法学	地域理学療法および地域リハビリテーションの概念および地域リハに必要な知識の取得を行なう。	3前	30	1	○			○					○	○		
○		地域理学療法学演習	居住環境、地域環境のバリアについて理解し、障害に対する環境面からの問題解決の技能を習得する。また、地域での各領域に対する理学療法士の活動について理解する。	3後	15	1	△		○	○					○	○		
○		生活環境論	居住環境、地域環境のバリアについて理解し、障害に対する環境面からの問題解決の技能を習得する。	3前	15	1	○	△		○					○	○		
○		臨床見学実習	臨床に従事する理学療法士の指導のもとに、理学療法サービスが提供されている実際の場面に同席し、理学療法や理学療法士についての理解を深め、コミュニケーション能力を含む専門職としての基本的態度の学習を主目的とする。	2後	90	2				○					○	○	○	○
○		地域理学療法実習	地域理学療法の場面での経験を通して、地域包括ケアシステムにおける理学療法士の位置づけや役割について学ぶ。	3前	45	1				○					○	○	○	○

○		臨床実習前評価	臨床実習に臨むための情意・認知・精神運動領域について、準備状態を評価する。	3 後	30	1		○		○	○	○	○
○		臨床評価実習	最終学年時もしくはその直前に、臨床経験3年以上の理学療法士の指導のもとに、対象者の評価と治療に関する学習を主目的とする。「インターン実習」の通称で呼ばれる。	3 後	180	4		○		○	○	○	○
○		総合臨床実習Ⅰ	最終学年時もしくはその直前に、臨床経験3年以上の理学療法士の指導のもとに、対象者の評価と治療に関する学習を主目的とする。「インターン実習」の通称で呼ばれる。	4 前	360	8		○		○	○	○	○
○		総合臨床実習Ⅱ	最終学年時もしくはその直前に、臨床経験3年以上の理学療法士の指導のもとに、対象者の評価と治療に関する学習を主目的とする。「インターン実習」の通称で呼ばれる。	4 前	360	8		○		○	○	○	○
○		臨床実習後評価	臨床実習を振り返り、学んだことを整理し、今後の課題を明確にする。また、学習経験の交換や問題点の整理および解決策について討議を行い、臨床実習での学びをさらに深める。	4 前	15	1		○	○	○			
合計				100科目		3615単位時間(				124単位)			

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
4年以上在籍し、所定の学費を納入し、卒業に必要と定められた授業科目を履修し、規程する単位を修得する。		1学年の学期区分	前・後期
		1学期の授業期間	15週